

平成 22 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：19320045
研究課題名（和文）18～19世紀の英米文化交流の実証的研究

研究課題名（英文）A Study of Transatlantic Relationships in Various Fields of Culture in the Eighteenth and Nineteenth Centuries

研究代表者 平石貴樹

（HIRAISHI TAKAKI）

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：10133323

研究代表者の専門分野：アメリカ文学
科研費の分科・細目：ヨーロッパ語系文学
キーワード：英米史

1. 研究計画の概要

本研究は、実証的な資料研究に十分な注意をはらいながら、密接な英米文化交流の実情をあきらかにすることを目標とする。研究の焦点を明確化するために、両国の文学と文化を代表する作家や現象に当面の調査対象を絞り、それらに通底・あるいは相互関連する問題点を整理し、議論するという方法を採用したい。言うまでもなく、こうした研究の背景には、戦後わが国において、イギリス文化とアメリカ文化を異なるものとして、どちらかと言えばアメリカ文化を近代的で新しいタイプのものとして、軽々に論じ、またそれぞれの専門家にゆだねてきた趨勢を反省し、ありうべき英米文化の包括的研究を模索する意図が込められている。

2. 研究の進捗状況

研究代表者の平石は、2009年はルイザ・メイ・オールコットに対するシャーロット・ブロンテの影響を中心に、19世紀前半のアメリカ女性のイギリス文学の受容について調べるところまで研究が進んでいる。

大橋は、エドワード・サイードを中心に研

究し、アダプテーションとアプロプリエーション理論とその具体例の研究に関する理論と実践面での研究にとりかかっている。

柴田は、バーナード・マラマッド等の翻訳を通して、ディケンズをはじめとする19世紀イギリス小説と、トウィンをはじめとする19世紀アメリカ小説における、〈現実〉のありようの相違について考察を深めた。

高橋は引き続きスコットランド小説の研究をつづけ、阿部はアメリカとヨーロッパをまたにかけたエズラ・パウンドに焦点をあてることで、二〇世紀初頭のモダニズムを出発点にして19世紀、さらには18世紀の英米交流へと遡るような視点を探った。

3. 現在までの達成度

研究は概ね順調に進んでいる。とくに代表者平石の研究の進捗状況はめざましく、当初計画していた研究成果の結実としての文学史の刊行も、予定を前倒しする形で実現する可能性がある。その他、大橋、柴田、高橋、阿部といった研究分担者の研究の進展は、平石にくらべるとやや見劣りはするものの、大きな問題はない。

4. 今後の研究の推進方策

本年度の研究計画としても、引き続き地道な

資料の収集を中心に作業を進めつつ、成果発表にむけての準備も進めていく予定である。アメリカの文芸雑誌に関しては資料の多いコロンビア大学図書館やニューヨーク市立図書館の利用なども検討されているが、イェールやハーヴァードなどの図書館の利用の可能性もある。イギリスの雑誌に関しては、ブリティッシュ・ライブラリー、オックスフォード大ボードリアン図書館、ケンブリッジ大学総合図書館、ケンブリッジ大学キングスコレッジ、ケンブリッジ大学トリニティコレッジ、レン図書館などの資料の利用も考えられる。

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

5. 代表的な研究成果
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[その他]

[雑誌論文](計 2 件)

高橋和久「何かを棚上げて読むオースティン」、『ジェイン・オースティン研究』、第2号、1 - 21

柴田元幸「自虐の向こう側へ」、『リン・デインとマイノリティ文学』、『れにくさ』、第1号、79 - 88

[学会発表](計 1 件)

Takahashi, Kazuhisa. 'Some Remarks on English Literary History.' BK21 programme. 9th October, 2008. Sungkyunkwan University.

[図書](計 2 件)

平石貴樹(共著)『名作はこのように始まる』(千葉一幹・芳川泰久編 [ミネルヴァ書房 2008])、82 - 91

阿部公彦『英語文章読本』(研究社 2010) 215頁

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：